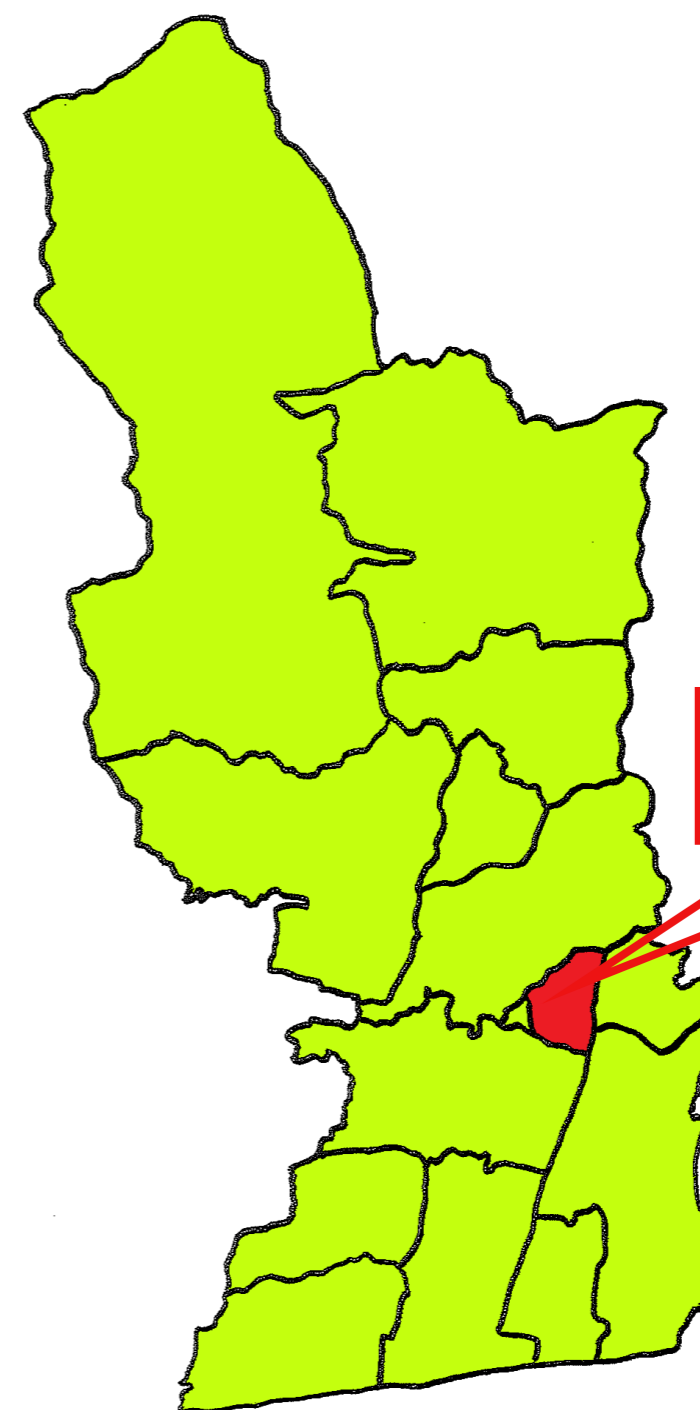


# わたしのまちの福祉プラン



野田地区社会福祉協議会

野田地区地域福祉活動計画は、地域に住む皆さんが  
地域で安心して暮らし続けられるために、  
「みんなが主役！全員集合な野田！」という基本目標を立て、地  
域全体として取り組むこと、住民のひとり一人取り組めることを計  
画的に推進するために策定をしました。  
地域の福祉活動は南国市内で統一してできるものではありません。  
地域の実情によって、取り組みは変わってきます。野田地区に合  
わせた継続性のある福祉活動の展開を図るためにも、ぜひ地域  
みんなで取り組んでいきましょう。

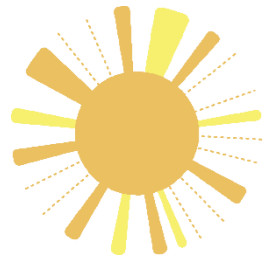


**ここが野田地区なのだ！**

**(野田地区はこんな地区なのだ！)**

野田地区は、南国市の中心街に位置し、人口は約1,200人、JR、とさでん交通など公共交通の要衝があり、交通の利便性が高い地区です。また、江戸時代初期に土佐藩の執政であった野中兼山によって開通した舟入川からの水路で耕作水に恵まれています。

昭和34年に南国市ができるまでは野田村といわれ、古くから開かれた地区だと考えられています。下野田には野田城跡がありますが、野田城は鎌倉時代に築城され、城主は長宗我部元親の一族であった野田甚左衛門でした。上野田にも上野田城跡がありますが、城主は野田氏が兼ねていたと考えられています。



🌟 私たち野田地区が目指す地域 🌟

# みんなが主役！ 全員集合な野田！



## 住民の皆さんが思う地域の良いところ・誇れるところ

- ・ 地域にあるグループごとの活動への「ノリ」の良さ。「やる」ゆうたら「やる」
- ・ 地区の会は、和やかな雰囲気地域に古くから住んでいる方も多く、何か面白いことができるのではないかと希望が持てる。
- ・ 道行く人との対話がある。
- ・ 校下民運動会で地域の交流ができています。
- ・ 学校へ愛校作業、交通等、地域の方がすごく協力的で、保護者としても助かっている。
- ・ 地域住民と保育園、小学校との交流がある。
- ・ 小学生も参加する敬老会をしている。
- ・ 年数回(3.6.7月)の清掃活動をしている。
- ・ 独居高齢者への配食サービスをしている。
- ・ 地域のいきいきサークルの活動が活発
- ・ 町内会、防災会、地区社協、地区民協が組織化している。
- ・ 氏神様のお参りが継承されている。
- ・ 生活環境の利便性が高い。  
(公共交通の要衝が近い・スーパー、病院が近い・田園が残っている等)

## 住民の皆さんが思う地域の課題

### 〈つながり〉

- 地域行事、地域活動への参加者が少ない。
- 近所同士での「結い」がなくなり、地域のつながり、必要性は薄れつつある
- 地域の一体感、連帯感がなく、無関心である。
- 地域の各活動へ次世代の参画が少ない
- 地域活動に参加していない人との接点がなく会話が少ない。
- 必ずしも小部落同士のまとまりがあるとは言えない。

### 〈見守り〉

- 見守りが必要な世帯、人が分かり難い。
- 一人暮らしの方への接し方が分からない。
- プライバシー尊重と遠慮気質の兼ね合いが難しい。
- 地域の見守り活動が少ない。
- 地域の見守りはできていないかと思う。しかし、若い世代の世帯とコンタクトがとれていない問題がある。
- 子どもたちとは声を掛け合うようにしているものの、このご時世に声をかけても良いものかと戸惑うこともある。
- 子どもたちには保護者が見えていない時に、地域の方が良い事、悪い事もほめて、注意して、頂ければありがたい。
- 一人暮らし高齢者の見守りや相談などは近所や当番であれば行動するが、それ以外であれば静かに見守っている。

### 〈情報〉

- 回覧板の効果があまり感じられない地域もある。(回覧で通知しても、参加者がいないなど)
- 各回覧の内容が理解把握できていないことがある。
- 情報、広報は配布しているが、見ていない人が多い。
- 地域の方への連絡方法をもっと、簡単な方法で行うには、どのようにしたら良いかと思っている。
- 地域情報誌のようなものができれば良いと思う
- 地域の活動など、学校やPTAに知らせて頂ければ広報やお手伝いなど、協力できることがあると思う。

### 〈担い手〉

- 人材、担い手はいるが、世代間交流の機会が少なくなり継承することが出来ていない。
- 次世代につなげる、育てるという気運がない。
- 今は個々で楽しむことが多い時代であり、そもそも地域行事への参画がない。仲間以外への無関心。
- OPTA 活動をしている世代が次の担い手となると思う。地区活動がなくなっている今、会う機会を作らなければと思う。
- 地域行事に PTA として協力できるように、子育て世代に伝える組織作りが必要。
- 地域の担い手はリタイヤ組が担っていくしかないと思う。
- 活動する人材が限られている。

### 〈防災〉

- 住民の防災意識をどのようにして高めるのが課題。
- 防災研修、避難訓練への参加者が減少傾向であり、参加者も固定化している。
- 繰り返し防災訓練に参加する必要性を感じる。
- 要援護者対策をどのようにするのか。
- 個人情報との兼ね合いもあるが、災害時に手助けが必要な人の情報は近所の人を持っておくようにすべきだと思う。
- 小学校でも防災の勉強に力を入れてきたが、現在はコロナ禍でできていない
- 野田防災連合会と自主防災会との綿密な連携が必要。
- 空き家の管理、休耕田、生活道の荒廃。

### 〈その他〉

- 過去にこうだったと、今でも引きずっている傾向が強い。
- コロナ禍で休止になった活動が復活できるか、新しい方法も考える時期だとも思う。
- 子どもたちが暮らしやすく、戻ってきたいと思えるまちづくりが必要。
- 地域美化への意識が低い。

### 課題まとめ①

多世代がつながり  
つなげていくことが  
できる地域づくり

### 課題まとめ②

地域のみんが野田への興味・  
関心を持ち支え合える  
地域づくり

### 課題まとめ③

災害時に  
助け合える  
安心の地域づくり

※この計画は、野田地区社会福祉協議会の役員を中心に、話し合い(座談会)のもと作成しました。

【事前アンケート配布集計】令和3年6月29日(火)～7月27日(火)

【第1回座談会】令和3年11月6日(土)

【第2回座談会】令和3年11月13日(土)

【計 画 策 定】令和3年12月22日

【策定メンバー】漆原佳代、上野郁夫、北村正文、三宮啓子、島崎勝、清水勉、竹村明、恒石賢、東條美紀、  
野村隆男、藤村明男 (50音順 敬称略)